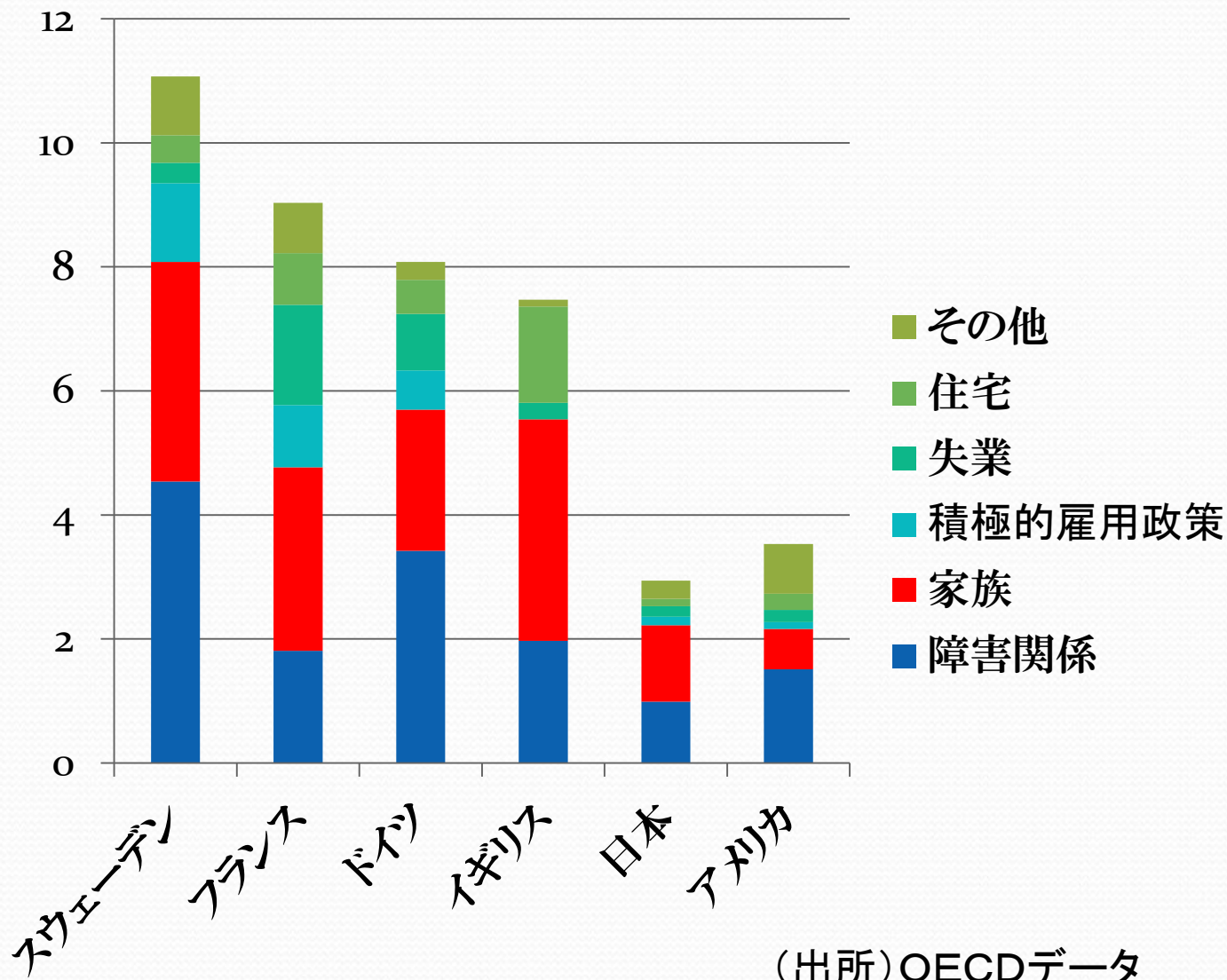


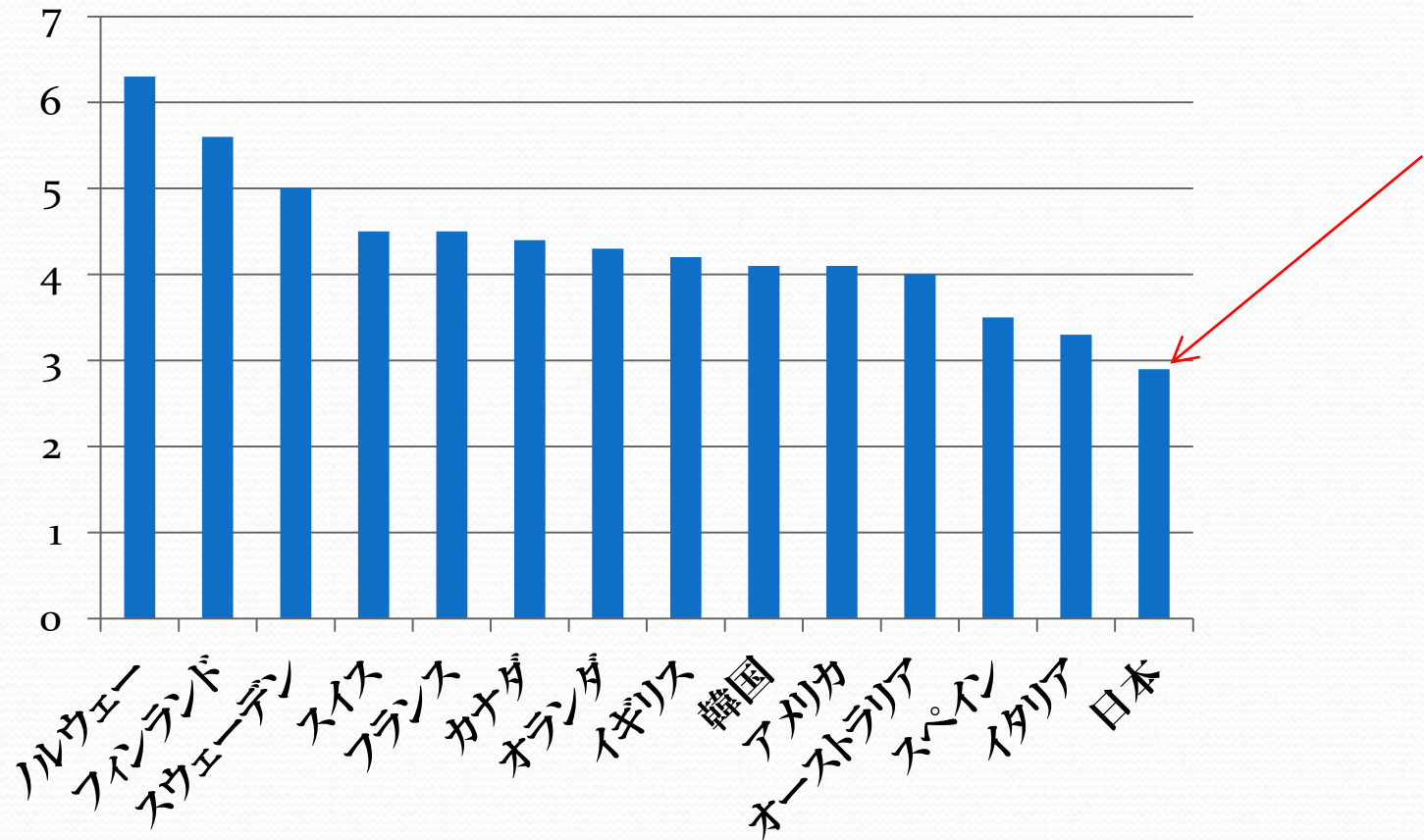
「人生前半の社会保障」の国際比較

(対GDP比、%) 2015年 一日本の低さが目立つ



公的教育支出の国際比較(対GDP比、2015年)

日本はOECD加盟国中もっとも低いグループ。



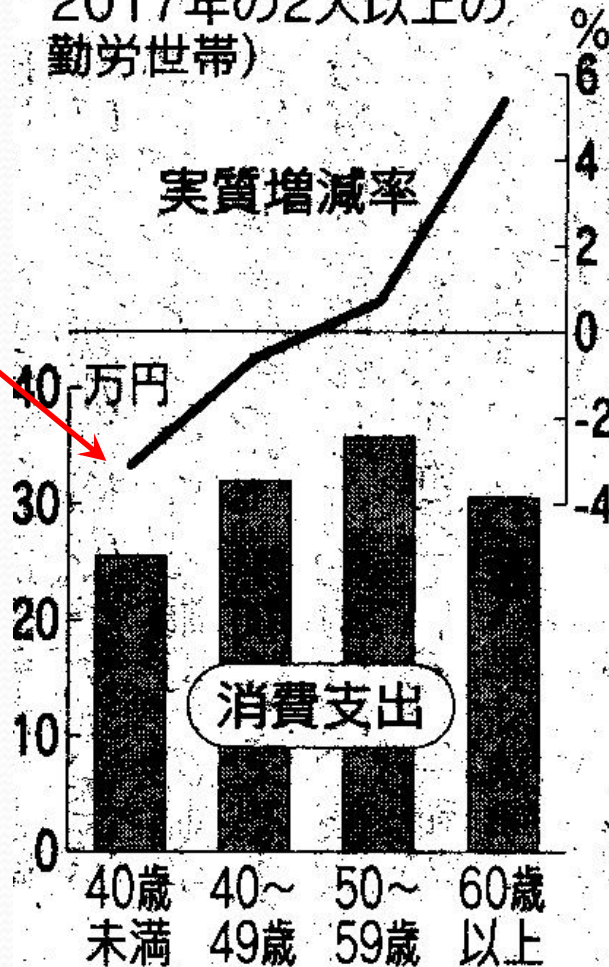
(出所)OECD, *Education at a Glance* 2018 より作成。

また特に就学前と高等教育期において、教育における私費負担の割合が大(高等教育期についてはOECD平均30.9%に対し日本は 67.5%。OECD, *Education at a Glance* 2010)

人生前半の社会保障の充実⇒若者の「消費」改善にも

若い世代は消費が減少

(総務省家計調査から作成。
2017年の2人以上の
勤労世帯)



総務省「家計調査」2017年分 速報(2018年2月公表)

2人以上の世帯の全体の消費額は、物価の影響を除いた実質では0.3%減と、4年連続の減少。

・・・特に60歳以上の消費は増加しているが、若年・子育て世代の消費が減少していることが全体の消費を押し下げている。

6. 伝統文化と自然の重要性 ー鎮守の森コミュニティ・プロジェクト

最近のある学生の例



- もともと**グローバル**な問題に関心があり、1年間の予定でスウェーデンに留学していた女子の学生が、“自分は**地元の活性化**に関わっていきたい”という理由で、留学期間を半年に短縮して帰国。
- 彼女の出身地は茨城県の石岡市で、関東三大祭の一つとも言われる“石岡のお祭り”が盛んな場所。→この**祭りの存在**こそがその**学生の地元****に対する愛着**の大きな部分を占めていたという。
- ちなみに「祭りが盛んな地域ほど若者が定着したり**Uターン**する傾向が高い」という指摘あり。

「鎮守の森・自然エネルギーコミュニティ構想」

- 全国の神社の数 :8万1000ヶ所
お寺の数 :8万6000ヶ所
- 神社やお寺といった存在は、かつて「コミュニティの中心(ないし拠点)」として存在し、経済、教育、祭り、世代間継承などコミュニティの多面的な機能を担っていた。
- こうしたコミュニティにとって「鎮守の森」のもつ意義を、自然エネルギー拠点の整備等と結びつけていくプロジェクト。
- 自然エネルギーという現代的課題と、自然信仰とコミュニティが一体となった伝統文化を結びつけたものとして、日本が世界に対して誇れるビジョンとなりうる可能性。



鎮守の森コミュニティ研究所

Chiniu-no-Mori (Grove of the Village Shrine) Community Research Institute

「生物多様性」＝“八百万の神様”

- 「**鎮守の森**」といった表現に示されるような、**日本**における人と自然の共生に関する**伝統的**な意識や自然観など、**生物多様性の保全に関わる文化的、精神的な側面**も考慮していくことが重要である。」

（環境省・次期生物多様性国家戦略研究会報告書〔2021年7月〕。広井も委員の一人）



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



石清水八幡宮(京都府八幡市)

太陽光発電による本殿釣燈籠の ライトアップ事業



埼玉県秩父市での展開： 地元住民と連携した小水力発電の導入



- 地元有志と鎮守の森コミュニティ推進協議会のメンバーが共同出資（陽野（ひの）ふるさと電力。50キロワット。2020年5月起工式→21年5月27日竣工）



- 小水力発電を通じ、伝統文化と地域コミュニティに根ざしたエネルギーの地産地消を目指す。

宮崎県・高原町

「神話の里」と自然エネルギー(小水力発電)の融合 →エネルギーの自給に関する実証実験



Iターン組の若者が作った一般社団法人「**地球のへそ**」と連携してプロジェクトを推進

狭野神社



京都大学 記者レク資料

自然エネルギー自給率95%で 地域社会の経済循環率が7.7倍に向上

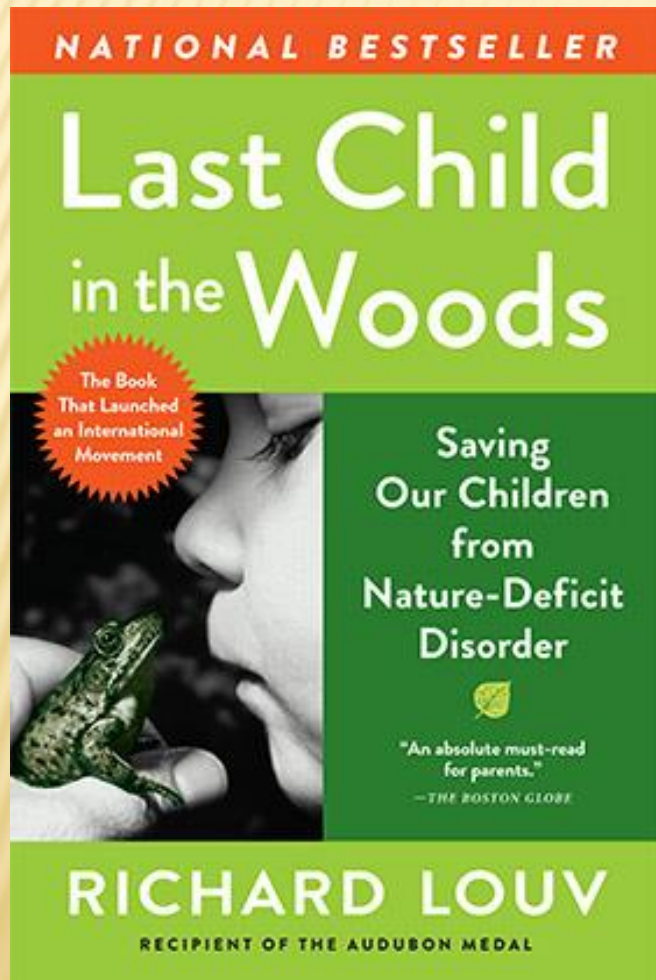
2019/3/27

株式会社 日立製作所 研究開発グループ
基礎研究センタ
日立京大ラボ



「自然」との関わりと心身の健康

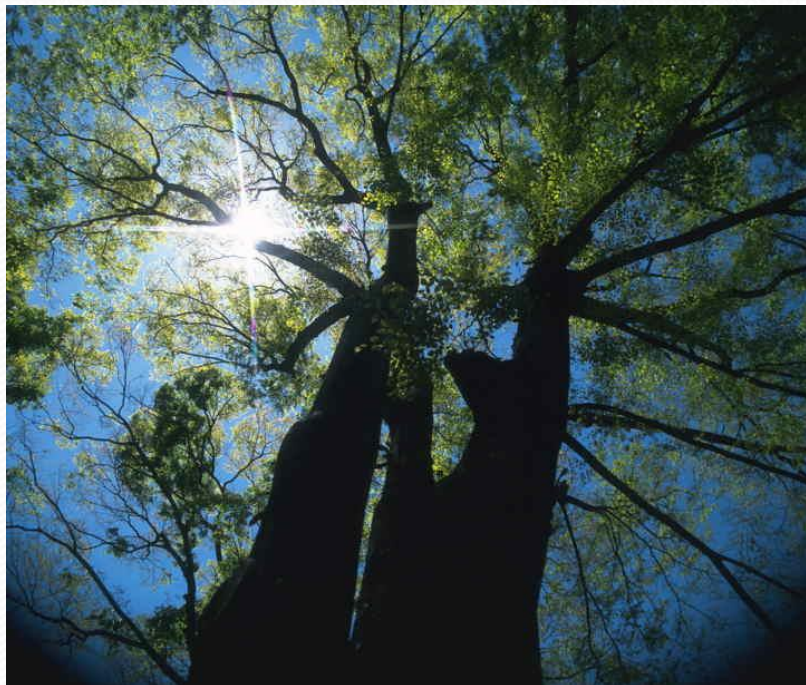
『あなたの子どもには自然が足りない (原題：LAST CHILD IN THE WOODS)』 リチャード・ルーヴ著、2005年



- × **自然欠乏障害** (Nature-Deficit Disorder)というコンセプト。
- × 子どもあるいは広く**現代人は自然とのつながりが根本的に不足**しており、それが発達の過程にマイナスの影響を及ぼすとともに、大人を含めて様々な現代病の背景にもなっているとの内容。
- × アメリカや多くの国々でベストセラーに。
- × 原題は、自然の中にいる子どもは現代では“絶滅危惧種”になっているとの趣旨。

自然との関わりを通じたケア

- 人間にとって、**自然との関わり**が**心身の健康や精神的安定・充足**にとって大きな意味。
- しかしながら、現代人はそうした自然とのつながりから離れがち。
- 園芸療法、森林療法等の試みや研究の発展。



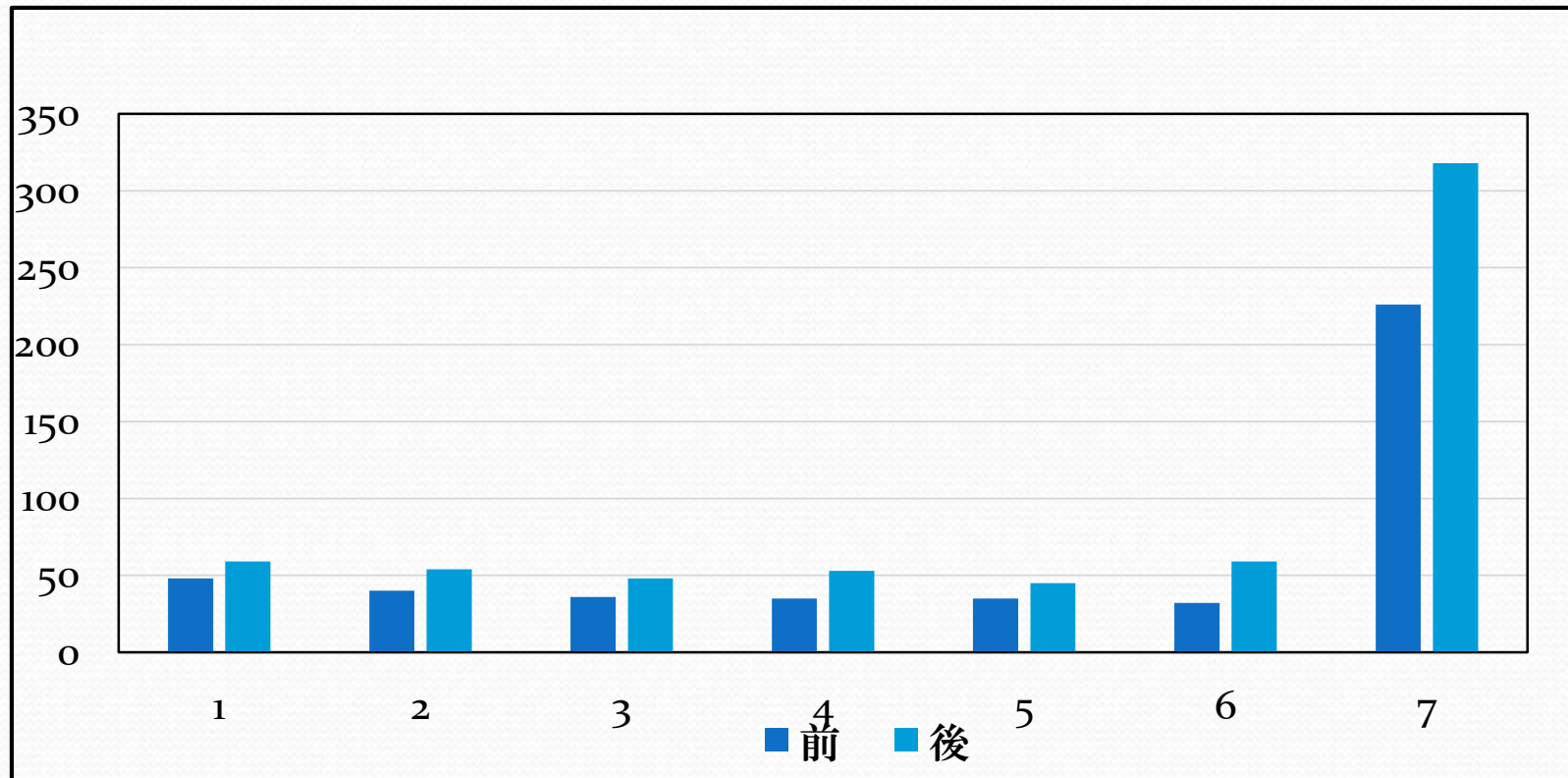
鎮守の森セラピー（森林療法）の試み

＜白幡天神社（市川市）にて＞



実施例) 最初に気功を行い、続いて樹木に寄り添う、触れる、抱える等により瞑想を行う。

ROS(主観的回復感)調査の結果



- ・受講者11名中10名が受講前よりもトータルで好結果となっている。
- ・セラピーにより大きく改善されたのは、
 - 6. **頭がすっきりしている**..... 全体で27ポイント改善
 - 4. **元気を取り戻し、安らかでくつろいだ気分である**..... 18ポイント改善
 - 2. **集中力と周囲に対する注意力が高まっている**..... 14ポイント改善
- ・個別の項目で受講後にマイナスになったものは(のべ66項目中)5項目。

健康・環境・観光をつなぐ地域活性化

ドイツの自然療法地バート・ヴォリスホーフェン

（クナイプ療法〔統合医療の一つ〕のメッカ。

人口1.4万人の小さな町。年間10万人以上が宿泊。）



「クアパーク」内のアロマガーデン



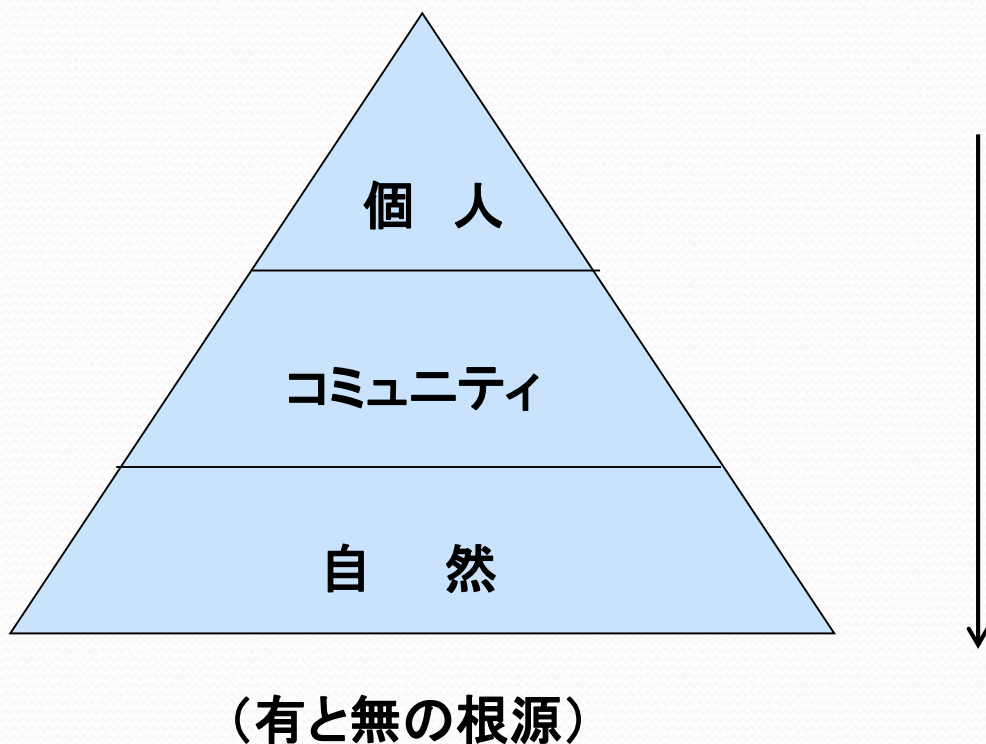
周辺は森・・・森林療法の場としても



公共の“水療法”
の場があちこちに



個人・コミュニティ・自然をつなぐ



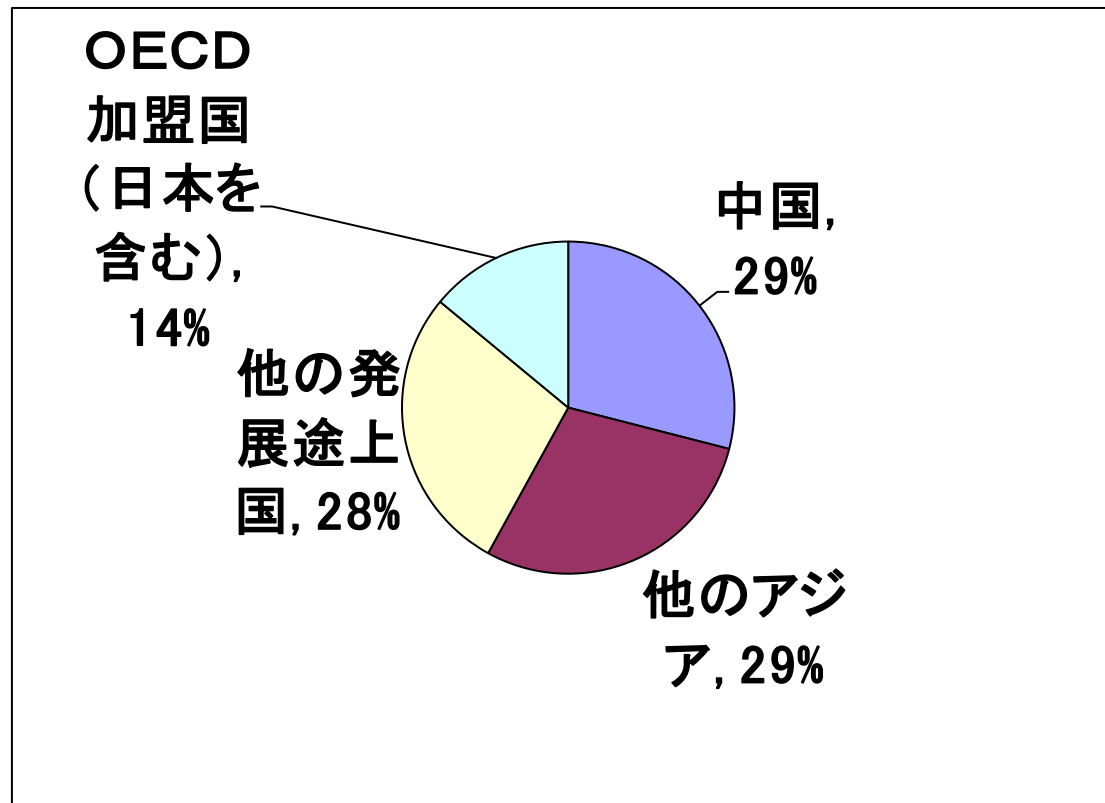
現代社会では、個人はその土台にある「**コミュニティ**」や「**自然**」、その根源にあるものとのつながりを失いがち。

おわりに：
グローバル定常型社会の展望

高齢化の地球的進行 “Global Aging”

— 今後はアジアが急速に高齢化 —

2030年までに世界で増加する高齢者(60歳以上)の地域別割合



(World Bank, *Averting the Old Age Crisis*, 1994)

日本・アジアと世界人口の動向

- 日本の人口は2008年をピークに減少。
- ヨーロッパも基本的には同様の方向(ex.ドイツは2003年より人口減少)。
- **韓国**は出生率が**1.0**を切り、「**人口絶壁**」という議論。
- **中国**の人口は2025年頃に13.9億人でピーク(国連・世界人口推計2010年版)。
- 東アジア全体では2035年の21.3億人がピーク(国連人口推計(2004))。
- **世界人口**は徐々に増加が緩やかになり**2100年には約109億人で安定**。(国連長期人口推計)。

ReAFRICA? : 2100年の世界人口推計

…上位10か国のうち5か国が**アフリカ**諸国(国連人口推計〔2015〕)

1	インド	1660
2	中国	1004
3	ナイジェリア	752
4	米国	450
5	コンゴ	389
6	パキスタン	364
7	インドネシア	314
8	タンザニア	299
9	エチオピア	243
10	ニジェール	209

(注) 日本は30位(8300万人)

- 「20世紀が人口増加の世紀——世界人口は16億から61億にまで増加した——だったとすれば、21世紀は世界人口の増加の終焉と人口高齢化の世紀となるだろう」

(Lutz et al(2004))

人口減少・成熟社会のデザイン ～「持続可能な福祉社会」へ

- 日本は人口減少・高齢社会の文字通り**フロントランナー**。
- 元来、**分散的で地域の多様性**が豊かな社会。
- **ローカル**から出発しつつ、環境・福祉・経済が調和した「**持続可能な福祉社会**」のモデルを先導的に実現、発信していくポジションにあるのではないか。



御清聴ありがとうございました

コメント、質問等歓迎します。

hiroi.yoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp

＊ 関連組織

・ 鎮守の森コミュニティ研究所

<http://c-chinju.org/>

(付論1)

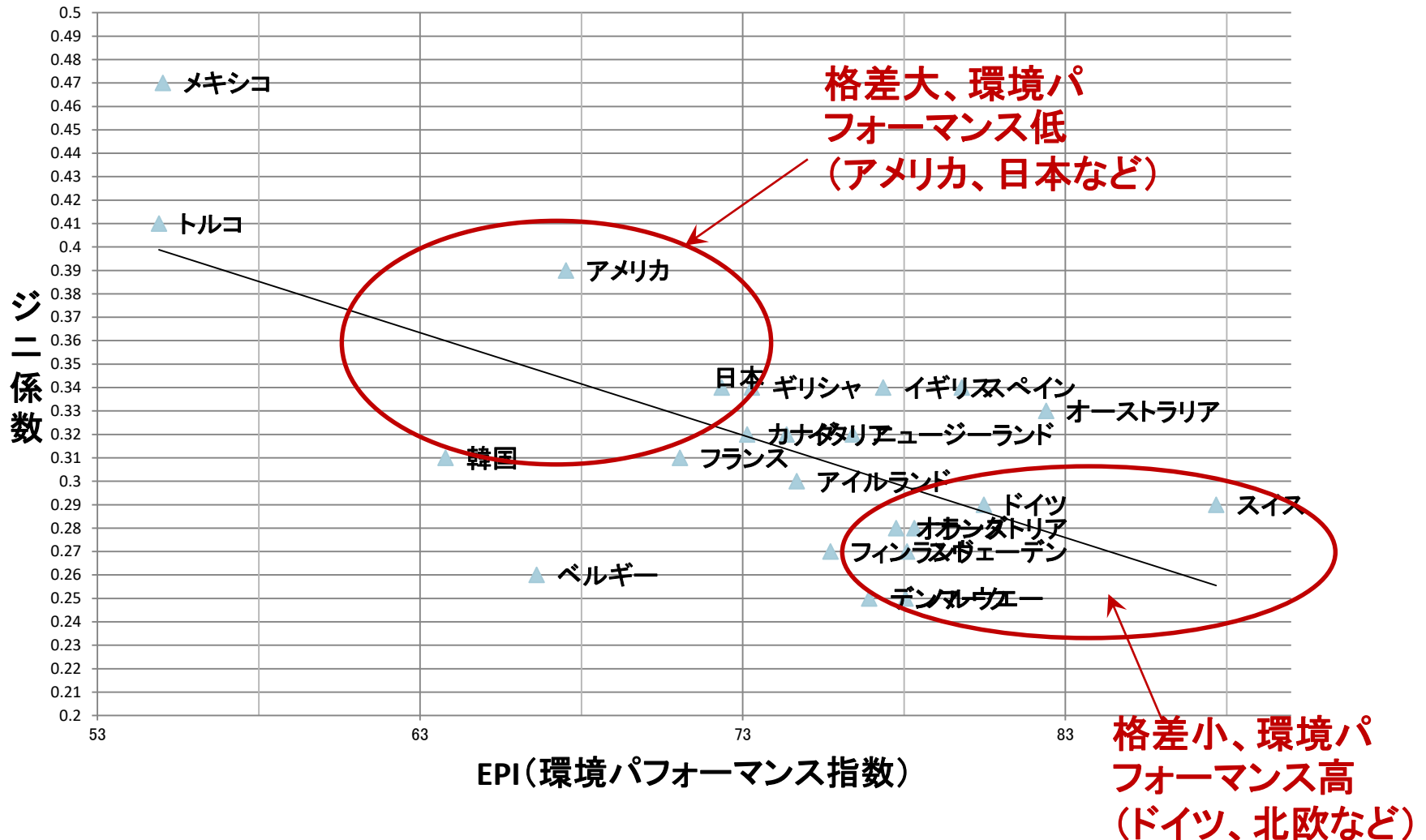
どのような社会を目指すのか
—「持続可能な福祉社会」のビジョン

「グローバル化」の**先**の世界：

二つの道の岐路、“せめぎ合い”の時代

- トランプ現象に見られるような、強い「**拡大・成長**」志向と一体となった**ナショナリズム** & 排外主義
- **ローカル**な経済循環や共生から出発し、「**持続可能な福祉社会**」を志向するような方向
 - ・・・**ドイツ**や北欧などに顕著。

「持続可能な福祉社会」指標と国際比較



(注)ジニ係数は主に2011年(OECDデータ)。EPIはイェール大学環境法・政策センター策定の環境総合指数。

(出所) 広井『ポスト資本主義』2015年。

目指すべき社会モデル

- 「**持続可能な福祉社会**sustainable welfare society」

・・・「個人の生活保障や分配の公正が実現されつつ、それが環境・資源制約とも調和しながら長期にわたって存続できるような社会」

- **環境**・・・富の総量の問題 **持続可能性**
- **福祉**・・・富の分配の問題 **平等、公正**

の両者の統合。

「環境－福祉－経済」の総合化

	機能	課題ないし目的
環境	「富の総量（規模）」に関わる	持続可能性
福祉	「富の分配」に関わる	公平性（ないし公正、平等）
経済	「富の生産」に関わる	効率性

(付論2)
人類史の中の
人口減少・成熟社会

世界人口の超長期推移

(ディーヴェイの仮説的図式)

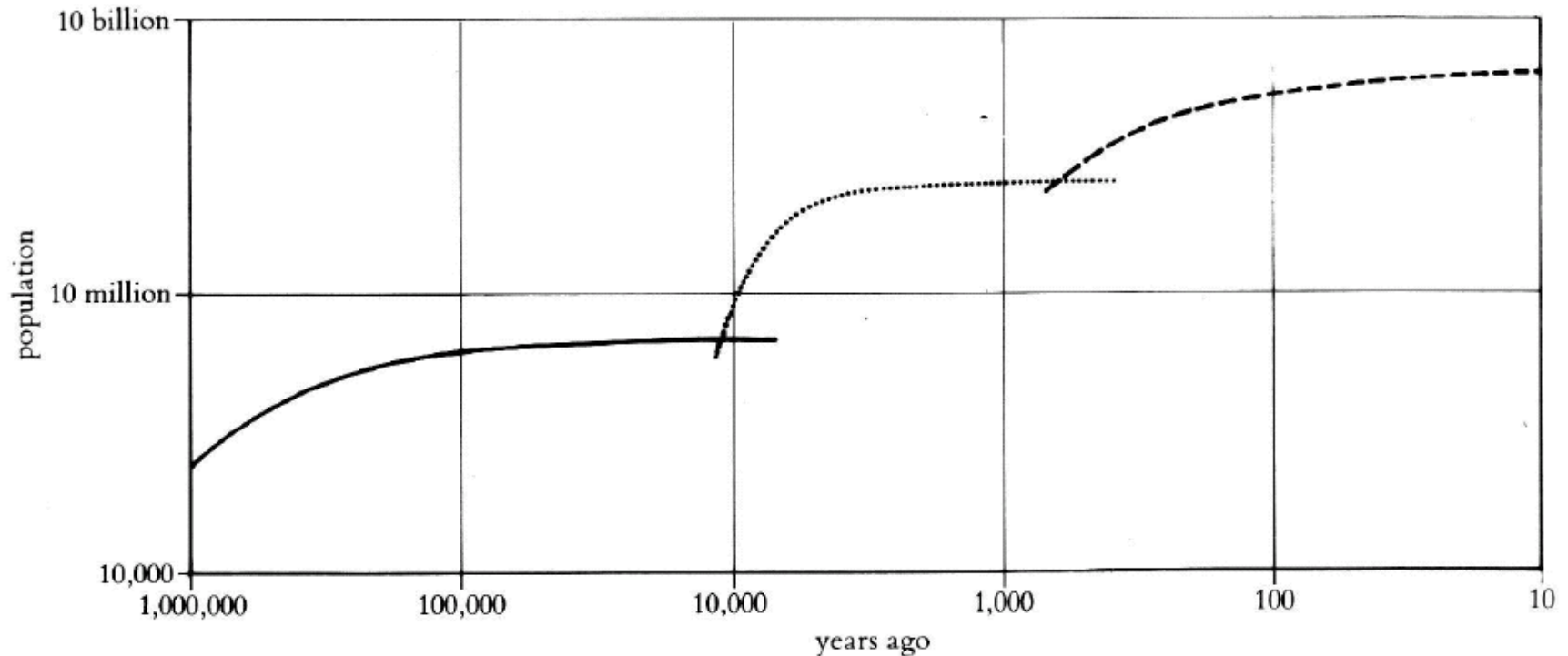


FIGURE 5.13 Deevey's schema of world population history for the last million years, with the number of years before the present and population size both plotted on logarithmic scales. SOURCE: Deevey (1960, p. 198)

人類史における「拡大・成長」と定常化

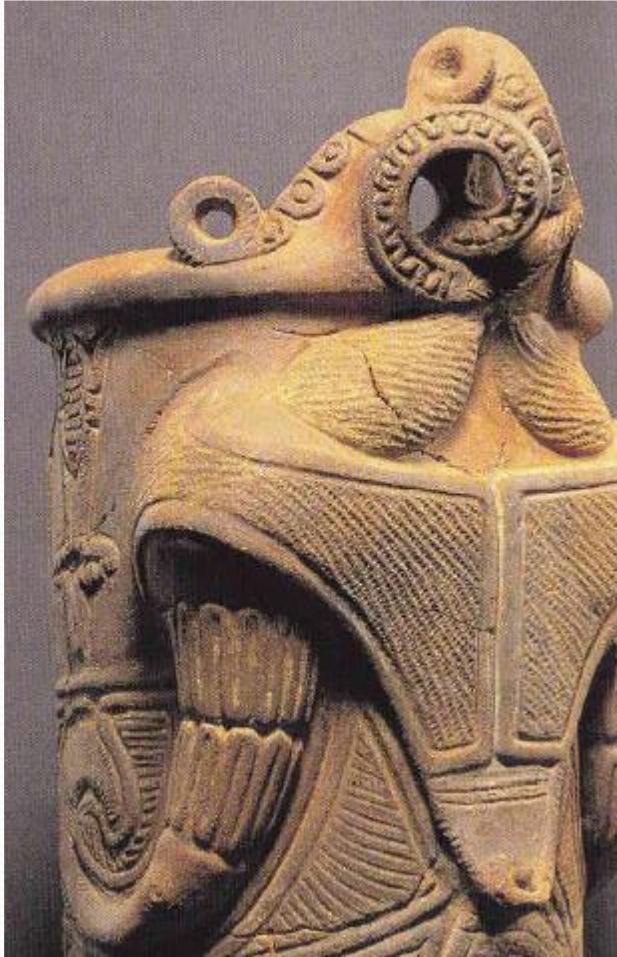
- 3つのサイクル：

①狩猟・採集－②農耕－③工業化（産業化）

- 背景としてのエネルギー利用または「自然の搾取」の高度化

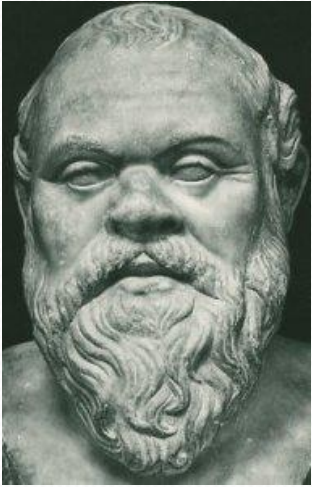
「心のビッグバン」のイメージ

ハヶ岳南麓から発掘された縄文土器遺跡群（井戸尻考古館パンフレットより）

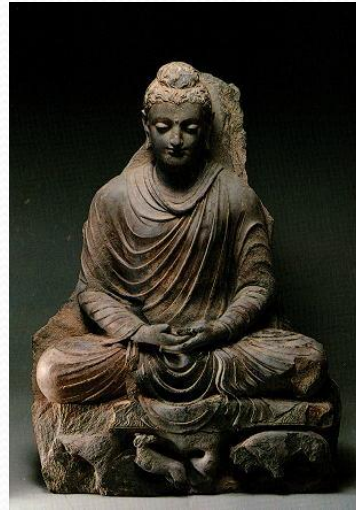


物質的生産の量的拡大(実用性)→文化、遊びと創造性
・・・狩猟採集段階における「定常期」への移行と重なるのでは？

枢軸時代(精神革命):紀元前5世紀前後



ソクラテス



ブッダ



孔子



旧約思想

- この時代、地球上の各地において**普遍的な原理を志向する思想**が**”同時多発的“**に生成。

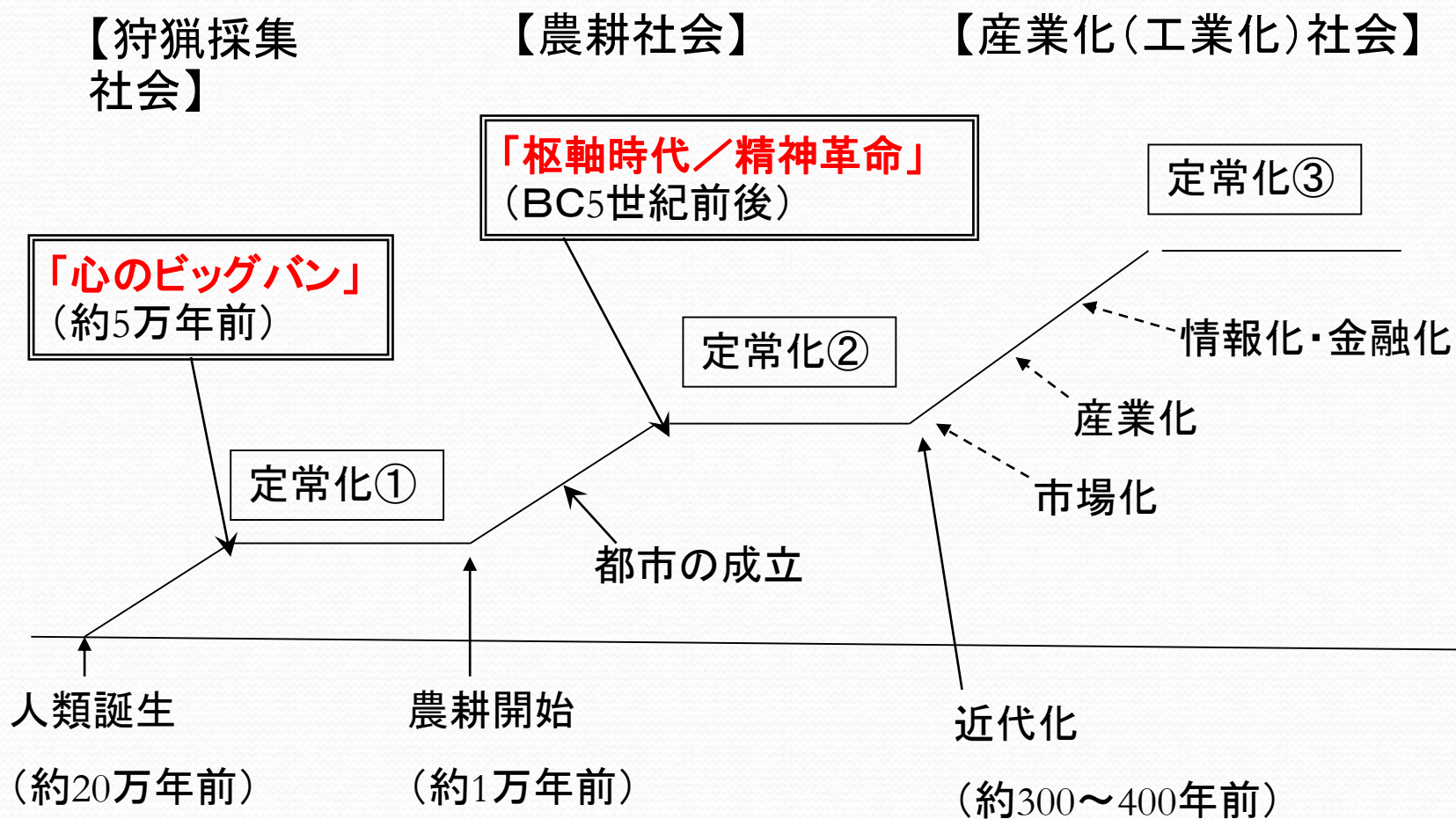
- ・ギリシャ: ギリシャ哲学 “たましいの配慮”
- ・インド: 仏教 “慈悲、涅槃”
- ・中国: 儒教や老荘思想 “仁”
- ・中東: 旧約思想～キリスト教 “愛、永遠の生命”

“文化的創造”の時代としての定常期

- 枢軸時代・精神革命（紀元前5世紀前後）
- 背景・・・農耕文明の資源・環境的限界の顕在化？
←近年の環境史environmental historyの知見
- 「心のビッグバン（精神のビッグバン、文化のビッグバン）」も狩猟採集段階における同様の構造？
- 物質的生産の量的拡大から文化的・精神的発展へ。
&「幸福」の意味への問い

人類史における 拡大・成長と定常化のサイクル

人口・経済の規模↑



【自然信仰】

【普遍宗教】

【地球倫理？】

「地球倫理」という視点

地球環境の「**有限性**」を認識し、地球上の各地域の風土や文化の「**多様性**」を理解しつつ、**個人を超えて**コミュニティ、自然、生命とつながる



参考文献

- 伊東俊太郎(2013)『変容の時代——科学・自然・倫理・公共』、麗澤大学出版会。
- 宇都宮浄人(2015)『地域再生の戦略——「交通まちづくり」というアプローチ』、ちくま新書。
- 高松平蔵(2008)『ドイツの地方都市はなぜ元気なのか』、学芸出版社。
- 広井良典(2001)『定常型社会 新しい「豊かさ」の構想』、岩波新書。
- 同(2009)『コミュニティを問いなおす』、ちくま新書。
- 同(2011)『創造的福祉社会』、ちくま新書。
- 同(2015)『ポスト資本主義 科学・人間・社会の未来』、岩波新書。
- 同(2019)『人口減少社会のデザイン』、東洋経済新報社。
- 同(2021)『無と意識の人類史——私たちはどこへ向かうのか』、東洋経済新報社。